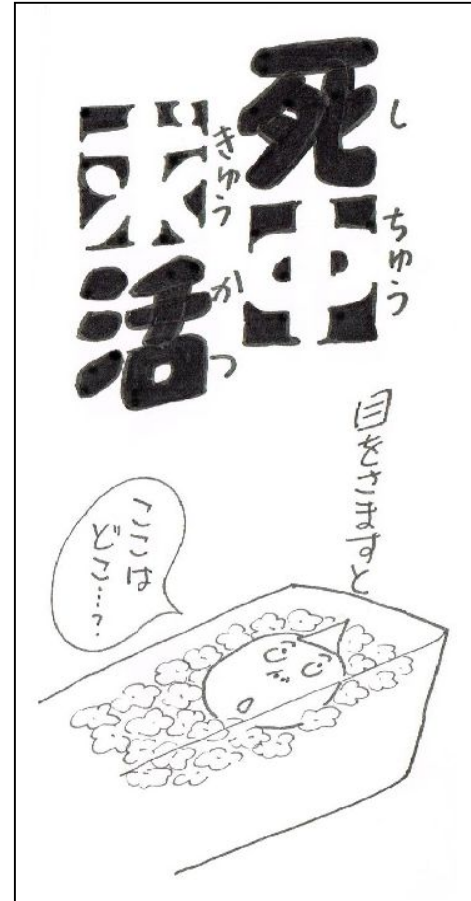


先週の回答



「死中に活を求め」と読み下し「死中に生(せい)を求む」ともいう『死中求活』を先日、わたしは経験した。

ふと目をさますと、まっ暗な闇の中だった。何でオレはこんなとこに寝ているんだと思って、細目に手でフタを持ち上げてみると、坊主が読経をしているではないか。オレの入っている箱に向かつて坊主の隣で喪服の妻が目にはハンケチを当ててうつむいている。兄妹も兄妹の子たち(甥や姪)もいつになく礼儀正しく正座している。まずい、と思った。オレは一度死んで息を吹き返したんだと悟った。

こーゆー場合、だいたいなのはタイミンだ。突然フタを開けて、

「ああーよく寝た」じゃ集まっている人たちはユレーーと思って阿鼻叫喚する修羅場と化すにちがいない。

かと言って、このまま火葬場で焼かれては焼死してしまう。

何とか起死回生の策を講じなくては。おだやかに死中に活を求めなくてはいかんと思ったオレは中から軽くコンコンとノックした。高齢の坊主は、最近ややボケかかっていると耳にしていたからだ。

案の定、坊主はふと読経をやめて、コンコンとノックを返してきた。

「入っています」とオレは小声で答えた。「早くしてください」とトイレと勘違いして坊主が言う。

「お待たせしました」とオレはハンケチで手を拭きながら棺桶から出た。みんな



は唾然としていたので助かった。

ちなみに『死中求活』は、「今度のプロジェクトは、業績不振のわが社にとつては、死中求活の賭である」のように、生き残る道を探るため、また、現在の困難を打破するために、自ら進んで死地に飛び込む場合に使われることの方が多いうだ。

今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。